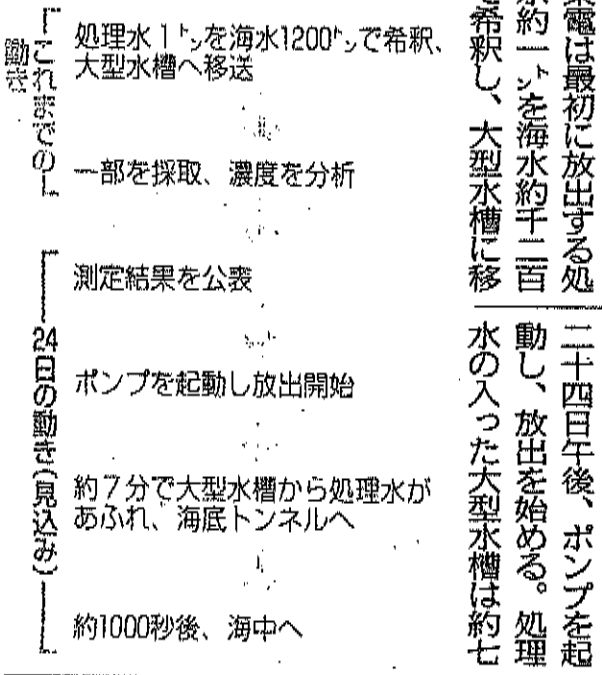


# 福島第1 処理水、23年度3万ト放出 まよゆう午後1時にも開始

政府と東京電力は二十四日午後一時にも、福島第一原発の処理水の海洋放出を始める。二〇二三年度は計約三万一千二百トの放出を計画。東電は二十三日、最初に放出する処理水に含まれる放射性物質トリチウムの濃度を測定した結果、放出に問題がないことを確認した。二十四日午後にも放出のためのポンプを起動する。『関連の面』

第一原発の処理水は約百三十四万トで、敷地内のタンク約千基で保管。容量の約98%に相当する。二三年度は約三万一千二百トを四回に分け、約七千八百トずつ放出。一回目の放出終了には十七日程度かかるとしている。処理水は日々増えているため、年度内の削減量は約一万一千二百ト、タンク約十基分にとどまると見込む。

## 処理水海洋放出の最初の手順



東電は最初に放出する処理水約一トを海水約千二百トで希釈し、大型水槽に移す

送。トリチウム濃度を測定するため一部を採取していた。二十三日は配管や、異常時に処理水の放出を止める緊急遮断弁などの設備の状況を確認した。

東電は測定結果を踏まえ二十四日午後、ポンプを起動し、放出を始める。処理水の入った大型水槽は約七

分で満杯になり、隣の立て坑へあふれる。立て坑は海底トンネルに直結しており、あふれた時点で海へ放出したことになる。海水で希釈した処理水は、約一キロのトンネルをゆっくりと流れ、約千秒後、海中に到達すると計算している。

地元の漁業者は放出に反対姿勢を崩していない。政府と東電は一五年、漁業者と「関係者の理解なしに、(処理水の)いかなる処分も行わない」とする約束を交わしている。